Ⅱ　各教科等の指導と評価

1　各　教　科

国　　語（書　　写）

国語科の目標は、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することである。具体的には、日常生活（社会生活）に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うこと、日常生活（社会生活）における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うこと、言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を養い（豊かにし）、国語の大切さを自覚し（我が国の言語文化に関わり）、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことが大切である。

資質・能力の三つの柱が相互に関連し合いながら一体となって働くような、児童生徒主体の言語活動を充実させていくことが重要である。　※（　　）内は中学校

【小　学　校】

1　国語科の指導の重点

〔知識及び技能〕

(1)　「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、語彙指導等の改善・充実を図ろう

ア　話し言葉と書き言葉のもつ特徴の違いに気付き、語感や言葉の使い方に関する感覚を養う。

イ　漢字の読みと書きを身に付け、生活や学習の中で使えるよう指導を改善・充実させ、文や文章の中で適切に使う能力を育てる。

ウ　日常生活で使える語句の量を増やすとともに、語句のまとまりや関係、構成や変化について理解し、語彙を豊かにする。

エ　主語と述語、修飾語と被修飾語の関係等を捉え、話や文章の構成や展開について理解する能力を育てる。

オ　語のまとまりや文章全体の構成を意識して音読や朗読をする能力を育てる。

(2)　「情報の扱い方に関する事項」では、話や文章の中の情報や自分のもつ情報を整理する能力を育成しよう

ア　共通するもの、相違するもの、原因と結果等、情報と情報との関係を理解できるようにする。

イ　比較や分類、図等による関係付け等、言語活動の中で情報を整理して使う能力を育てる。

(3)　「我が国の言語文化に関する事項」では、豊かな言語文化に親しませる指導を充実させよう

ア　昔話や古典、慣用句やことわざ等の音読や暗唱等を通して、先哲のものの見方や感じ方を知り、言葉の響きやリズムに親しんだり、楽しんだりする態度を育てる。

イ　言葉の由来や変化を知り、仮名及び漢字のでき方や特徴について理解する能力を育てる。

ウ　書写では、筆記具の持ち方や筆順等の文字を書く基礎を系統的に指導し、毛筆と硬筆の関連を図るとともに、各教科の学習活動や日常生活に生かせる力を育てる。

エ　日常的に幅広く読書に親しみ、必要な知識や情報を得ようとする姿勢を育てる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A　「話すこと・聞くこと」では、相手や目的等に応じて適切に話したり聞いたりする能力を育成しよう

ア　話題を決めて情報を集め、相手に伝わるように話の順序や構成を考える能力を育てる。

イ　音声表現を工夫したり、資料を活用したりして表現の工夫をする能力を育てる。

ウ　話し手が伝えたいことと、自分が聞く必要があることの両面を意識しながら聞く能力を育てる。

エ　話し手と聞き手の双方の意見や考えを共有し、それらを関わらせる能力を育てる。

B　「書くこと」では、相手や目的等に応じて適切に書く能力を育成しよう

ア　書きたいことを決め、インターネット等を用いて必要な情報を集めたり、整理したりする能力を育てる。

イ　自分の考えが明確になるように段落相互の関係等に注意し、文章を構成する能力を育てる。
ウ　目的や必要に応じて、語や文及び段落の続き方に注意しながら、まとまりのある文章を記述する能力を育てる。
エ　文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする能力を育てる。
オ　書いた文章等を他者と共有し、互いに意見を述べ合ったり、助言し合ったりする能力を育てる。

Ｃ　「読むこと」では、目的に応じて的確に読み取る能力を育成しよう

ア　説明的な文章や文学的な文章の全体の構成を把握し、内容を捉える能力を育てる。
イ　文章の内容や形式に着目してキーセンテンスを見付けたり、本文の表現を手掛かりにして内容を具体的に想像したりする能力を育てる。
ウ　文章を読んで理解し、感想や考えをもったり、自分の考えをまとめたりする能力を育てる。
エ　文章を読んだ感想や意見を共有し、自分の考えを広げる能力を育てる。

２　主体的・対話的で深い学びを引き出す国語科の学習指導

(1)　学習過程を明確にし、「考えの形成」を重視した指導を組み立てよう

ア　どのような資質・能力の育成を目指した学習活動であるかを明確にして指導計画を立て、学んだことを活用して自らの考えを形成する過程を組み入れる。
イ　言葉や言語文化に関心をもち、自ら語彙を豊かにするなどの主体的な学びにつながる活動を取り入れる。
ウ　他者との関わりや、様々な言語活動を通して、考えを広げ深める対話的な学びを促す。
エ　言語を様々な側面から思考・判断する活動を取り入れ、深い学びへとつなげる。

(2)　学習の系統性を重視し、言語活動を工夫して資質・能力の定着を図ろう

ア　らせん的・反復的な学習を通して資質・能力の定着を図ることを念頭に置き、児童の実態を踏まえて、系統的・段階的に上の学年につながる単元の計画を立てる。
イ　各単元で身に付けたい資質・能力を明確にし、それらを効果的に身に付けるための言語活動を設定する。その際に、思考、判断、表現する場面が生まれるようにする。
ウ　習得した知識や技能を活用する場を授業で保障し、身に付けたことを他教科や日常生活で生かせるようにする。

(3)　評価を次の学習につなげよう

ア　単元における指導事項や言語活動をもとに、観点別に評価規準を設定する。評価する場面を単元全体や授業において位置付け、児童が見通しをもって学習に臨めるようにする。
イ　各観点の評価においては、ノートやレポート、論述や発表、行動観察や自己評価等、評価の場面や方法を工夫して、多面的に学習の過程や成果を評価する。評価したことを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、次の学習活動へとつなげていく。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の工夫・改善（小２　ビーバーの大工事）

身に付けさせたい力等

・　文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【思考、判断、表現】
・　語と語や文と文との続き方に注意しながら、「どうぶつのひみつずかん」で紹介しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

活動例

・　１人１台端末上の木や石などのパーツを組み合わせて作ったダムや巣を、学習支援システムを活用し、学級全体で共有する。可視化されたダムや巣を確認・操作しながら、重要な語や文について話し合う。
・　端末で作成したセンテンスカードを操作しながら、お気に入りの動物を紹介する文について考える。

【中　学　校】

1　国語科の指導の重点

〔知識及び技能〕

(1)　「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、習得した語彙を活用する指導の充実を図ろう

ア　音声の働きや仕組みについて理解を深め、話し言葉と書き言葉の違いを踏まえて適切に使い分ける能力を育てる。

イ　常用漢字の大体を読み、学年別配当漢字表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れる能力を育てる。

ウ　事象や行為、心情を表す語句や抽象的な概念を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。

エ　語句の役割や文の成分の順序や照応等、文の構成について理解を深め、話や文章の構成や展開について理解する能力を育てる。

オ　表現技法や敬語の働きについて理解し、場に応じて話や文章の中で使う能力を育てる。

(2)　「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係を明確にする指導を充実させよう

ア　原因と結果、意見と根拠、具体と抽象等、情報と情報との関係について理解を深める。

イ　情報の整理の仕方や情報と情報との関係の表し方、情報の信頼性の確かめ方を理解し、言語活動の中で使う能力を育てる。

(3)　「我が国の言語文化に関する事項」では、豊かな言語文化に親しませる指導を充実させよう

ア　作品の特徴や歴史的背景等に留意して古典を読み、作品に表れたものの見方や考え方を知ることを通して、古典の世界に親しむ態度を育てる。

イ　共通語と方言の果たす役割や、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解する能力を育てる。

ウ　身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、目的や必要に応じて効果的に文字を書くよさを理解する能力を育てる。

エ　様々な立場や考え方が書かれた本や文章を読むことで、自分の生き方や社会との関わり方について考えを広げたり、深めたりする能力を育てる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A　「話すこと・聞くこと」では、話し合うことを通して自分の考えを広げ深める能力を育成しよう

ア　目的や場面に応じて社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討する能力を育てる。

イ　立場や考えを明確にし、根拠や論理の展開等に注意して話の構成を工夫する能力を育てる。

ウ　相手の反応や場の状況を踏まえ、自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫する能力を育てる。

エ　話し手の考えや内容を比較したり評価したりしながら自分の考えをまとめる能力を育てる。

オ　互いの考えを尊重しながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げ深める能力を育てる。

B　「書くこと」では、根拠や表現、論理展開に留意して自分の考えを書く能力を育成しよう

ア　目的や意図に応じて社会生活の中から題材を決め、集めた内容の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする能力を育てる。

イ　文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように段落相互の関係や論理の展開等を考え、文章の構成を工夫する能力を育てる。

ウ　表現の仕方を考えたり、資料等の根拠を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する能力を育てる。

エ　目的や意図に応じた表現になっているかを確かめ、文章全体を整える能力を育てる。

オ　表現効果や論理の展開等について、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす能力を育てる。

Ｃ　「読むこと」では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを形成する能力を育成しよう

ア　説明的な文章や文学的な文章の全体の構造を把握し、叙述や描写をもとに論理や物語の展開の仕方等を捉える能力を育てる。

イ　目的に応じて適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味等について考えたりして文章の内容を解釈し、文章に表れているものの見方や考え方について考える能力を育てる。

ウ　文章の構成や論理の展開、表現の効果について観点を明確にして評価する能力を育てる。

エ　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりして確かなものにする能力を育てる。

２　主体的・対話的で深い学びを引き出す国語科の学習指導

(1)　学習過程を明確にし、「考えの形成」を重視した指導を組み立てよう

ア　どのような資質・能力の育成を目指した学習活動であるかを明確にして指導計画を立て、学んだことを活用して自らの考えを形成する過程を組み入れる。

イ　言葉や言語文化に関心をもち、自ら語彙を豊かにするなどの主体的な学びにつながる活動を取り入れる。

ウ　他者との関わりや、様々な言語活動を通して、考えを広げ深める対話的な学びを促す。

エ　話や文章を言語の様々な側面から思考・判断する活動を取り入れ、深い学びへとつなげる。

(2)　学習の系統性を重視し、言語活動を工夫して資質・能力の定着を図ろう

ア　らせん的・反復的な学習を通して資質・能力の定着を図ることを念頭に置き、生徒の実態を踏まえて、系統的・段階的に上級学年につながる単元の計画を立てる。

イ　各単元で身に付けたい資質・能力を明確にし、それらを効果的に身に付けるための言語活動を設定する。その際に、思考、判断、表現する場面が生まれるようにする。

ウ　習得した知識や技法を活用する場を授業で保障し、身に付けたことを他教科や日常生活で生かせるようにする。

(3)　評価を次の学習活動につなげよう

ア　単元における指導事項や言語活動をもとに、観点別に評価規準を設定する。評価する場面を単元全体や授業において位置付け、生徒が見通しをもって学習に臨めるようにする。

イ　各観点の評価においては、ノートやレポート、論述や発表、行動観察や自己評価等、評価の場面や方法を工夫して、多面的に学習の過程や成果を評価する。評価したことを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や、次の学習活動へとつなげていく。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の工夫・改善　（中３　高瀬舟）

身に付けさせたい力等

・　話合いの中で自分の考えを整理したり、伝え合う内容を検討したりしながら、自分の意見をもつことができる。【思考、判断、表現】

活動例

・　場面ごとの読み取りを終えた段階で、自分の考えが、２軸で分割された喜助の人物像のどこに位置付くのか、学習支援システムのポジショニング機能を活用して整理し、示す。

・　他者と互いの考えを伝え合う中で、自分の考えを再配置しながら、喜助の人物像について理解を深める。同時に、全員の端末の画面を大型提示装置に表示することで、個々の思考を共有する。

・　ポジショニングの軌跡を振り返ることで考えの変容を確認し、自己の学びを更新する。